

第3学年国語学習指導案

日 時：令和4年11月24日 公開授業1

対象学級：3年1組 32名

指 導 者：熊谷 美紀子

1 単元名

つたわる言葉

教材名 「ことわざ・故事成語」(光村図書 3年)

2 内容のまとめ

[知識及び理解] (3)イ

[思考力・判断力・表現力等] B 書くこと(1)ア

3 単元の目標

(1) 長い間使われてきたことわざや故事成語の意味を知り、使うことができる。

[知識・技能] (3)イ

(2) 目的を意識して、伝えたいことを明確にすることができる。

[思考・判断・表現] B (1)ア

(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

学びに向かう力、人間性等

4 単元について

(1) 児童について

ア これまで、俳句の音読や暗唱を通して言葉の響きや七五調のリズムを楽しみ、伝統的な言語文化に親しむ学習をしてきている。

イ デジタル教科書を使用することにより、教材文の中の大事な言葉や文章が、一目で確認できるようになった。学習の振り返りを提出箱へ送り、互いの考えを見合って、交流している。また、前単元「食べ物のひみつを教えます」では、ロイロノートを使用し、調べたい本の必要な部分を撮影し、その資料を見ながら説明する文章を書いた学習経験がある。

ウ 伝えたい相手や目的を意識して、内容のまとめごとに分けたり、必要なことを考えたりしながら書こうとする態度が身に付いてきている。

(2) 教材について

ア 本教材は、第3学年「ことわざ・故事成語」、第4学年「慣用句」に設定され系列に位置付けられ、伝統的な言語文化に親しむ初めての学習である。さらに、高学年では、第5学年「落語」、第6学年「能・歌舞伎」について知り、古典芸能の世界へ発展していくものである。

イ 本教材は、ことわざや故事成語を集めて辞典としてまとめる活動を通して、伝統的な言語文化に興味をもち、自らの生活の中で使える言葉として習得することを目指すのに適した教材である。

(3) 指導について

ア 本單元における言語活動の特徴等

本單元では、ことわざや故事成語の意味を正しく理解し、適切に使えるようにするために、「文例作り」を言語活動として設定する。単にことわざや故事成語の意味を調べただけで終わらず、どのような状況に対して使う言葉なのか、自分の生活場面と結び付けて考えるようにしたい。そのようにして、一人一人がまとめた「ことわざカード」をグループで集め、「ことわざ辞典」が完成することを目指す。

イ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫等

「主体的な学び」を実現するために、遊びの中で使われていた「いろはかるた」のことわざや「五十歩百歩」のアニメーション動画を示して、ことわざや故事成語への興味をもたせる。単元のゴールを「ことわざ辞典作り」として設定し、正しい使い方を理解するという目的意識を持って文例作りができるようにする。

「対話的な学び」を実現するために、完成した辞典の特徴を仲間と共有する場面を設定する。同じ班の仲間は、どんなことわざや故事成語を選んでいるのか、比較検討する場面を設定することで、新たな発見や気づきなどを促し、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

「深い学び」を実現するために、対話によって共有できた共通点や気づきを明らかにし、新たな発見などを価値付けていく。完成したことわざ辞典を交流する場面で、より具体的な生活に結び付いた文例を全体でも取り上げて、実感できるようにする。この單元以降も、ことわざや故事成語の教えや言葉の面白さを知って興味をもったり、先人の知恵や考え方が自分の生活の役に立ちそうだという期待感をもったりできるようにしたい。

ウ 研究の手立てとのかかわり

電子黒板にデジタル教科書を投影したり、タブレットに資料を配付したりすることで、視覚化・焦点化を図る。ロイロノートを活用し、ことわざカード作りに必要な辞典や本などを記録したり、作成したカードを記録して集めたりして、活動や思考した内容が残るようにする。それを仲間と共有したり、比較検討したりすることで、単元の目標を達成するための手立てとしたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・長い間使われてきたことわざや故事成語の意味を知り、使っている。 (3) <u>イ</u>	・「書くこと」において、ことわざや故事成語を紹介するという目的を意識して、その意味を正しく理解し、分かりやすい文例を考えている。 <u>B (1) ア</u>	・興味をもってことわざや故事成語の意味を知ろうとし、具体的な状況と結び付けて考え、調べたことを分かりやすく書こうとしている。

6 指導と評価の計画（5時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次			
1 ・ 2	<ul style="list-style-type: none"> ことわざや故事成語について知り、辞典作りへの興味をもつ。 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ことわざや故事成語の意味、由来について調べ、記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「いろはがるた」や「ことわざ辞典」を提示し、興味をもたせるとともに、既有的知識を引き出す。 班で自分たちの「ことわざ辞典」を作ることを知らせ、教科書P59を参照し、完成までの流れを確認する。 <p style="text-align: center;">ICT（視覚化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ことわざや故事成語について知り、教科書に提示されているものの意味や由来を国語辞典や本で調べ、記録させる。 <p style="text-align: center;">ICT（焦点化）</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書以外にも興味があるものについて調べて、記録させる。 出てくるものや表現、意味など着目する観点を紹介し、興味を広げられるようにする。 <p style="text-align: center;">ICT（共有化）</p>	<p>【主体的】 〔観察・記述・ロイロノート〕</p> <p>興味をもってことわざや故事成語の意味を知ろうとし、具体的な状況と結び付けて考え、調べたことを分かりやすく書こうとしている。</p>
第二次			
3 ・ 4	<ul style="list-style-type: none"> 好きなことわざや故事成語を選び、意味と文例を入れて「ことわざカード」を作る。 ことわざ辞典を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までに集めたことわざや故事成語の中から、一人3つを選ぶ。班の中で、重複がないように確認をする。 <p style="text-align: center;">ICT（視覚化）</p> <ul style="list-style-type: none"> 選んだことわざや故事成語の意味を正確に理解し、自分の生活の中の具体的な状況に当てはまる文例を書くことができるようにする。 <p style="text-align: center;">ICT（焦点化）</p> <ul style="list-style-type: none"> 早く書き終わった場合には、紹介する項目や絵等を追加させる。 ことわざカードをとじる順番について全体で共有した後、相手に分かりやすい説明をするという目的を意識して、班毎にとじる順番を相談して決め、辞典を完成させる。 <p style="text-align: center;">ICT（共有化）</p>	<p>【思・判・表】 〔観察・記述・ロイロノート〕</p> <p>ことわざや故事成語を紹介するという目的を意識して、その意味を正しく理解し、具体的な生活場面を思い浮かべながら分かりやすい文例を考えている。</p>

第三次

5 本 時	<ul style="list-style-type: none">・完成したことわざ辞典を紹介し合い,感想を交流する。 <ul style="list-style-type: none">・本単元を振り返る。	<ul style="list-style-type: none">・辞典の特徴とそれがよく分かる文例を挙げて紹介するという目的があることを意識させる。ICT (視覚化)・他の班の辞典の紹介を聞き,よいところを見つけ交流する。より多くのことわざや故事成語にふれ,そのよさに気付くことができるようにする。 ICT (焦点化・共有化)・言い回しのおもしろさ,先人の知恵や教訓を知って,これからの生活の中で意識し,自分の語彙や考え方にいかしていくことができるようにする。	<p>【知・技】 〔記述・ロイロノート〕 ことわざや故事成語を調べ,意味を知って文例を作ったり,紹介し交流したりして使っている。</p>
-------------	--	--	---

7 本時の指導（5時間目／全5時間）

（1）目標

ことわざ辞典を紹介し合い、ことわざや故事成語のよいところを見つけることができる。

（2）展開

	学習活動	指導上の留意点（◇評価）
導入 5分	1 前時想起 2 本時の課題把握 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ことわざ辞典をしょうかいし合い、感想を交流しよう。 </div>	
展開 33分	3 課題解決 （1）班毎に、完成したことわざ辞典を紹介する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; background-color: #cccccc;">ICT（視覚化）</div> （2）他の班のことわざ辞典を見て、感想を交流する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; background-color: #cccccc;">ICT（焦点化・共有化）</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・他の班の辞典の特徴や分かりやすい文例についての発表を聞き、より多くのことわざや故事成語への関心をもてるようにする。 ・特徴的なことわざとして発表したものは、交流の際の手がかりとなるよう板書しておく。 ・他の班の辞典を見て、自分たちが作った辞典との共通点や相違点について比較しながら、感想を交流させる。 ・辞典の特徴にした観点や文例の分かりやすさに着目させ、よさとして認めることができるようにする。 ・ことわざ辞典作りを通して、言葉のおもしろさや昔の人の教えについて気付いたこと、辞典作りに生かされたことを価値付けるようにする。
終末 7分	4 振り返り <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> わたしは、猫が好きなので、「猫の手も借りたい」ということわざを調べました。とても忙しくて、手伝ってほしい意味だと、初めて知りました。宿題をしているとき、のんびり寝ている猫を見て、「そんなにひまそうにしているなら少し手伝って。」と思ったことがあります。実際猫は、何もできないけど、考えた人の気持ちが分かる気がしました。もっといろいろなことわざを調べて、使ってみたいです。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元全体を通しての振り返りを書くようにする。調べたこと、文例作り、長い間使われてきた言葉のおもしろさや教え等を観点に書き、これからの生活に生かそうとする本単元のねらいを達成できるようにする。 <p>◇【知・技】</p> <p>〔記述・ロイロノート〕</p> <p>ことわざや故事成語を調べ、意味を知って文例を作ったり、紹</p>

		介し交流したりして使っている。
--	--	-----------------

(3) 板書及び電子黒板等の計画

ア 板書

⑤ 調べたこと

- ・ 文例作り
- ・ 言葉のおもしろさや教え

ことわざのよさ

○他の班のいいところ・

- ・ 昔の人の知恵を知った
- ・ 自分も〜と思った
- ・ 言葉の使い方がおもしろい
- ・ 使えそう

⑧ ⑦ ⑥ ⑤ ④ ③ ② ①

○しようかいしたことわざ

ことわざ・故事成語

⑦ことわざ辞典をしようかいし合い、感想を交流しよう。

イ 電子黒板

